

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2018年1月26日

[テーマ] 温泉、だるまの魅力―頂点目指す心意気―

昨年の大みそかにかけて、草津温泉と万座温泉を訪れた。

草津温泉では源泉かけ流しで癒やされた。宿で仲居さんと会話をした際、「ここは日本一の温泉だ」と胸を張っていたが、旅行会社社員が選んだランキングでは15年連続で全国1位となっている。温泉の効能が高い、自噴湧出力日本一である、といった恵まれた資源と、泉質主義を貫く関係者の方々の熱意やおもてなし、長期的ビジョンがかみ合って、国内外の宿泊客を惹きつけているのだろう。

雪景色に囲まれ月を眺めながらの万座温泉の露天風呂は、まさに別天地とも言うべき体験だった。屈指の絶景温泉地であることを実感した。薬師堂の御堂がちょうど開かれていたため、薬師如来を拝み、その門扉に掘られた蛙様に見守られて帰途についた。

年明けには高崎だるま市や、少林山の七草大祭だるま市、前橋初市まつりに行き、だるまを購入した。全国のだるまの大半は高崎で生産されている。その一つ一つに職人の思いが込められて作られている。

今回の旅行で経験したものはいずれも全国で最高の評判を獲得しているが、その地位にたどり着くまでには、平たんではない歴史があったかもしれない。難しい局面があったとしても乗り越えられてきたのは、最良のものを創り出していこうとする人々の心意気が底流にあってこそではないか。ナンバーワン、オンリーワンを目指す気概に触れ、これも本県の強みであることにあらためて気付かされた。分野は違うが、新春にサッカーで全国制覇した前橋育英高校のプレーからも、七転び八起きの気迫にしばれた次第である。

日本銀行前橋支店長
岸 道信